

3 課

10月17日

教師としての律法



安息日午後 10月10日

暗唱聖句

あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。(申命記 6 : 5、新共同訳)

あなたは心をつくし、精神をつくし、力をつくして、あなたの神、主を愛さなければならない。(申命記 6 : 5、口語訳)

今週の聖句

申命記 31 : 9~27、ローマ 3 : 19~23、黙示録 12 : 17、14 : 12、マルコ 6 : 25~27、ヘブライ 5 : 8

今週のテーマ

律法主義を警告するようと、パウロはガラテヤの信徒にこう記しました——「万一、人を生かすことができる律法が与えられたとするなら、確かに人は律法によって義とされたでしょう」(ガラ 3 : 21)。言うまでもなく、もし「人を生かすことができる」律法があるとしたら、それは神の律法でしょう。しかしそれにもかかわらず、パウロの指摘は、罪人である私たちにとって、神の律法でさえ命を与えることはできないというものです。なぜでしょうか。「しかし、聖書はすべてのものを罪の支配下に閉じ込めたのです。それは、神の約束が、イエス・キリストへの信仰によって、信じる人々に与えられるようになるためでした」(同 3 : 22)。

しかし、もし律法が罪人に命を与えることができないのなら、私たちに恵みの必要を示す以外に、その目的は何なのでしょう。つまり、律法の機能は否定的なものだけで、私たちに罪を示すことしかないのでしょうか。

いいえ、違います。律法は私たちに、イエスの中にしか見いだせない命の道を示すためにもあります。これは、真の教育が目的とすべきことでもあるのです。恵みの人生、信仰の人生、キリストに従う人生を私たちに示すことです。それゆえ、私たちは今週、キリスト教教育のあらゆる問題における神の律法の役割について研究します。その際に、律法は私たちを救えませんが、信仰、恵み、墮落した人間に対する神の愛について、どのようなことを私たちに教えることができるのかを考えてみましょう。

申命記には、新しい世代を前にしたモーセの遺言が含まれています。彼らは、ようやく約束の地に入る世代です。しかしそうする前に、モーセには彼らに言うべき明確な言葉、明確な指示がありました。

問1 申命記 31：9～13 を読んでください。主を畏れるとは、どういうことですか。

神は、意図的な方法によってご自分の律法をイスラエルに授けられました。ご自分の律法が忘れ去られないように、あらゆる準備をなさったのでした。神は我慢強い教育者であり、教え、繰り返し、預言者を遣わし、ご自分のメッセージを授けるために僕たちを用いられます。確かに、旧約聖書に書かれていることの多くは、命の道を行くよう、ご自分の民に教えておられる神のことばかりです。

これらの節の中で、モーセは次世代が律法を学ぶことの重要性をいかに強調しているか、注目してください。モーセはそれを二段階で説明しています。まず、子どもたちは律法を聞き、その結果、「主を畏れるようになる」(申 31：13) のです。

まず、子どもたちは聞き、その結果、神を畏れることを学びます。つまり、律法を学ぶというのは、律法を知れば畏れが自然に生じるわけではないということを前提にしています。神を畏れる過程は、学習されなければなりません。

また、「神を畏れる」とは、どういうことでしょうか。人々は、「あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい」(申 6：5)とも言われているのです。それは、子どもが良い父親を愛しつつも尊敬することにたとえることができるかもしれません。良い父親とは、本当に思っていることだけを口にして、愛情と思いをやりを表現する父親です。子どもが間違っただけをしたら、父親は懲らしめを与えます。確かに、私たちは神を愛し、それと同時に神を畏れることができますし、そうでなければなりません。それらは矛盾する考えではありません。神について学ばば学ぶほど、私たちは神の慈しみのゆえに神をもっと愛すようになります。しかし同時に、神について知れば知るほど、私たちは神を畏れるようにもなります。なぜなら、神がどれほど聖く、義なる方であり、逆に私たちがどれほど罪深く、正しくないか、また私たちが滅ぼされないのは、いかにただ恵み(受けるに値しない功績)によるかがわかるからです。

神を愛すると同時に神を畏れるとは、いったいどういうことだと、あなたは理解しますか。

モーセは自分が間もなく死ぬと知ったとき、そのあとの状況をよくわかっていました。彼の死後、イスラエルの人々が約束の地カナンに入ること、彼らが念願の目的地に着くなり、反抗的になることも、モーセは知っていたのです。

問2 申命記 31：14～27 を読んでください。死ぬ前に、モーセはどのような準備をしていますか。モーセの一番の心配事は何でしたか。彼はその心配事に、どのように対処しましたか。

ここでのモーセの言葉の調子は、後任者のために準備する教師のようです。この教師は、生徒たちが自分のいる教室で無作法に振る舞ってきたことを知っています。彼は、自分のいないところで生徒たちが反抗することはないだろうと考えるほど、愚かではありません。モーセは契約の箱を担ぐレビ人に、「あなたに対する証言」(申 31：26) とするために律法の書を契約の箱の傍らに置くよう指示します。モーセは後任者のための授業計画をただ伝えようとしているではありません。彼は「証言」を伝えているのです。モーセは律法の書のことを、あたかも人の心を叱責する力を持った生き物であるかのように語っています。

問3 「民に対する証言」(申 31：21) としての律法について考えてみてください。新約聖書にあるこのような考え方を、私たちはいかに理解したらよいのでしょうか(ロマ 3：19～23 参照)。つまり律法は、私たちが恵みを必要としていることを、いかに指し示していますか。

申命記 31 章で、神はモーセに、ご自分が教えられた歌を書き留めなさい、と命じておられます。そして次に、モーセはその歌をイスラエルの人々に教えなければなりません。19 節に述べられているように、その歌を「イスラエルの人々に対するわたし〔神〕の証言とする」ためです。歌は、それが歌われるときに、より簡単に共有され、広まります。そして、歌があかしであるとき、それには人々の目を自分自身に向けさせ、それが彼らについて何と言っているのかをわからせる能力があります。

問4 ヨシュア記1:7、8を読んでください。神はヨシュアに、何とっておられますか。そこに見いだされる原則は、現代の私たちにいかに当てはまるでしょうか。

ヨシュアがカナン¹の地に入るとき、主は彼にこうっておられます——「ただ、強く、大いに雄々しくあって、わたしの僕^{しもべ}モーセが命じた律法をすべて忠実に守り、右にも左にもそれではならない。そうすれば、あなたはどこに行っても成功する」(ヨシュ1:7)。

服従の結果としてもたらされる成功というこの考えは、現代の世界において成功を判断する仕方とは対照的であるように思えるかもしれません。今日、成功の指標は、革新性、創造性、自立性であると、多くの人が信じています。何らかの分野で成功するためには、しばしば非凡な能力と、危険をいとわない態度が求められます。

しかし神の目から見れば、成功に必要なのは、一連の異なる資質なのです。

問5 黙示録12:17、14:12、ローマ1:5、16:26、ヤコブ2:10~12を読んでください。神の律法に従うことについて、これらの聖句は、現代の私たちに何と語っていますか。つまり、たとえ神の律法に従うことで救われなくても、なぜそれを守り続けることは重要なのですか。

旧約聖書、新約聖書、古い契約、新しい契約——そのようなことは問題ではありません。聖書を信じるクリスチャンとして、私たちは神の律法に従うように命じられています。その律法を犯すこと(別名「罪」)は、痛み、苦しみ、永遠の死しかもたらしません。神の律法を犯したことの結果、つまり罪の結果を、自ら学んだことのない人、自分の目で見たことのない人がいるでしょうか。古代イスラエルが神の律法に従うことによって(彼らも恵みを必要としましたが)成功したように、それは現代の私たちにとってまったく同じです。従って、キリスト教教育の一環として、私たちは神の律法を、信仰によって生き、神の恵みに信頼することの中心的要素にし続ける必要があります。

罪の結果について、あなたはどのような経験をしてきましたか。ほかの人が同じ過ちを犯さないよう、彼らに伝えることのできるどんなことを学びましたか。

ヨシヤは神の教えをしっかりと守り、イエスラエルの人々をよく導きました。再三再四、主はイスラエルに、律法に従うなら栄えるであろうとおっしゃいました。

問6 歴代誌下 31：20、21 を読んでください。なぜヒゼキヤが成功したのかということに関するこの聖句の中で、そのおもな理由は何ですか。

私たちがどのような教育の場に行くと、従順であることの重要性を強調しなければなりません。しかし、私たちの生徒は愚かではありません。遅かれ早かれ、彼らは厳しい現実気づきます——ある人たちは、忠実で、愛情深く、従順であるけれど、それが一体何だというのか、と。惨事は彼らにも襲いかかります。私たちはそれをどのように説明したらよいのでしょうか。

実際のところ、私たちは説明できません。私たちは、罪の世界、悪の世界、大争闘が激しく起きている世界に生きており、だれもその影響を受けずにはいられないのです。

問7 次の聖句は、この難問について、どのようなことを教えていますか（マコ 6：25～27、ヨブ 1：1、IIコリ 11：23～29）。

疑問の余地のないことですが、善良で忠実な人、律法に従う人が、これまで必ず成功してきたかといえば、少なくともこの世が理解する成功という意味では、必ずしもそうではありませんでした。そしてそこには、この難問、つまり私たちが律法の重要性を教えようとするときに間違いなく生じる問題に対する部分的な答えがあるのかもしれませんが。私たちにとって、「成功」とは何を意味するのでしょうか。詩編記者は何と言ったのでしょうか。「あなたの庭で過ごす一日は千日にまさる恵みです。主に逆らう者の天幕で長らえるよりは／わたしの神の家の門口に立っているのを選びます」（詩編 84：11 [口語訳 84：10])。この世の基準からすれば、神に忠実であり、神の律法を守る人でさえ、(少なくとも現世では)常に「成功する」とは言えないことは、間違いありません。忠実には常に成功すると言うなら、生徒たちにうそをつくことになります。

ヘブライ 11：13～16 を読んでください。これらの聖句は、忠実な人もこの世の人生では苦しむ理由を理解するうえで、いかに助けとなりますか。

神のみ子なるイエス・キリストは、ただ1人、父なる神と神の律法に対して完全に忠実な人生を送られました。それによって、私たちの模範になりました。

問8 次の聖句を読んでください（ルカ2:51、52、フィリ2:8、ヘブ5:8、ヨハ8:28、29）。これらの聖句は、キリストが生涯ずっと忠実であられたことを、いかに思い出させてくれますか。

ヨハネの次の言葉は、このことを最もよく言いあらわしています——「神の内にもいつもいると言う人は、イエスが歩まれたように自らも歩まなければなりません」（ヨハ2:6）。地上におけるキリストの生涯とその奉仕に目を留めるとき、その従順さによって父なる神が喜ばれたことがわかります。キリストは預言を成就し、生涯にわたって神の律法を守られました。

神はモーセに、イスラエルの人々に対するあかし（証言）となるよう、律法を書き留めなさい、と言われました。ちょうどそれと同じように、キリストは、彼の使徒、弟子、罪人や清い人たちにとって、そのあかしの化身でした。今や私たちは、従う一連の規則だけでなく、イエスという生身の人間の模範をも持っているのです。

私たちは教師として、イエスの模範と、父なる神に対する彼の従順さ以上により良い手本を示すことができるでしょうか。

「キリストを信じれば神に服従する義務はないというのは、信仰ではなく、憶測です。『事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました……』（エフェソの信徒への手紙2章8節）とされています。けれども、『信仰もこれと同じです。行いが伴わないなら、信仰はそれだけでは死んだものです』（ヤコブの手紙2章17節）とも記されています。またイエスご自身も、この地上に来られる前に、『わたしの神よ、御旨を行うことをわたしは望み／あなたの教えを胸に刻み（ます）』（詩編40編9節）と言い、ふたたび天にお帰りになる直前には、『わたし（は）父の掟を守り、その愛にとどまっている』（ヨハネによる福音書15章10節）と言われました。聖書には、『わたしたちは、彼の掟を守るなら、それによって、神を知っていることが分かります。……神の内にもいつもいると言う人は、イエスが歩まれたようにみずからも歩まなければなりません』（ヨハネの手紙1・2章3、6節）」（『キリストへの道』改訂第3版文庫判86ページ）。

あなたの生活のあらゆる領域でキリストの模範により従い、それによってほかの人にとってのより良い教師となるために、あなたは何ができますか。

「創造と救済の基礎となっている愛は、同時にまた真の教育の基礎でもある。このことは神が人生の指針としておあたえになった律法の中に明らかに示されている。第1の大きな戒めは、『精神をつくし、心をつくし、力をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ』である。力をつくし、思いをつくし、心をつくして、限りない全能の神を愛することは、あらゆる能力の最高の発達を意味する。それはまた人の知、徳、体に神のみかたちが回復されなければならないことを意味している。

第2の戒めもまた第1の戒めと同じように『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』である。

愛の律法は、心と魂と肉体を、神と人類同胞への奉仕にささげるように要求している。この奉仕によって、われわれは、他人への祝福となり、同時にまた、われわれ自身の上にも、最も大きな祝福をもたらすのである。無我の精神は、すべての真の発達の基礎である。無我の奉仕を通して、あらゆる才能が最大限に啓発されて、われわれはますます深く神のご性質にあずかる者となる。われわれは心に天国をうけ入れるので、天国にふさわしい者となるのである」（『教育』5ページ）。

話し合いのための質問

- ① 昔のイスラエルのように、私たちは神を愛し、同時に神を畏れるべきです（マタ 22 : 37、黙 14 : 7）。安息日学校のクラスで、どうしたら私たちが両方のことをできるようにになれるか、さらに話し合ってください。また、次の質問にも答えてください——「これら二つの掟は、なぜ矛盾していないのですか」。
- ② 標準を設けることと規則を定めることは、何が違いますか。あなたの経験からすると、アドベンチスト教会の中では、信者の共同体の中に高い標準を設けることと、共同体を結びつけるために規則を定めることと、どちらにより関心がありますか。聖書は、自分自身に対して高い標準を設けることについて、何と言っていますか。家族や教会に対してはどうですか。
- ③ どうしたら私たちは適正なバランスを取りながら、神の律法に従うことの重要性を示すと同時に、その服従が救いの手段でないことを示すことができますか。
- ④ 詩編 119 編を読み、服従、自由、律法、掟、命令といったことが何度述べられているかに注目してください。詩編 119 編の記者は、これらの主題について何を伝えたいのですか。